

あらすじ

ウシノクビって…知ってる？  
この話を聞くとみんな呪われて  
いなくなるんだって。

私がもうひとりいる…。奏音(Kōki)は、ある心霊動画に映った、自分そっくりの女子高生を見て驚愕する。牛首マスクを無理やり被せられ、廃墟に閉じ込められたところで、映像は途切れた。彼女は誰なのか？妙な胸騒ぎと、忍び寄る恐怖。何者かに導かれるように、動画の撮影地・坪野鉦泉へと向かう。妹の存在、双子、牛の首、「牛首村」と呼ばれるおぞましい場所の秘密と風習が、狂気と恐怖となり、彼女にまとわりついていく……！

監督・脚本 清水崇



1972年7月27日生まれ、群馬県出身。アーティスト・プロデューサー。大学で演劇を専攻し、演出家・大橋也寸氏、脚本家・石堂淑朗氏に師事。同郷の小栗康平監督作『眠る男』(96)の見習いスタッフで業界入り。小道具、助監督を経て、自主制作した3分間の映像を機に黒沢清、高橋静吾の推薦を受け、1998年、関西テレビの短編番組『商業デビュー』東映テレビで原案・脚本・監督した『呪怨』シリーズ(99)がロケで話題になり、劇場版(01)を経て、サム・ライミ監督による『ロジュース』の元、U.S.リメイク版『The Grudge』邦題『THE HOUSE』(04)のシナリオライター。日本人初の全米興行成績No.1を獲得。続く『The Grudge 2』邦題『呪怨 ハンニク』(06)も全米No.1に。その他『稀人』(04)、『輪舞曲』(05)、『魔女の宅急便』(14)、『ブルーハーツが聴こえる』少年の詩(17)、『ホムンクルス』(21)などホラーやスリラーを中心に、ファンタジーやコメディ、ミステリー、SFなど取り組む。また、『モンスター』(13)、『香港』、『バイオハザード』、『ヴェンデッタ』(17)など国内外でプロデューサーも兼任。理論物理学の最先端『ひも理論』にエンタメ要素を用いた3Dドームによる科学映画『9次元からきた男』(16)が現在日本科学未来館にて上映中。近作に『ホムンクルス』(21)、14人の監督と組んで短編50作の総合監修を務めた『スマホ専用のタテ型ホラーコンテンツ』(スマホホラー)『21』など。本作は『天鳴村』(20)、『樹海村』(21)に続く『恐怖の村』シリーズ3作目となる。

キャスト



都内在住の女子高生。心霊動画の視聴をきっかけに、恐怖体験に巻き込まれていく。

富山在住の女子高生。心霊動画の配信で、坪野鉦泉の廃ホテルに行ったままだ方不明。詩音を探している。

奏音のクラスメイト。奏音に好意を持ち、動画の女子高生と一緒に探す。

詩音の恋人。行方不明の詩音を探している。

謎の女性。奏音の周りの、どこかおこに現れる。

詩音のクラスメイト。心霊動画の企画者。

詩音のクラスメイト。アキナのアシスタント的存在。

富山在住の男。たまたま出会った奏音と運を、坪野鉦泉へと案内する。

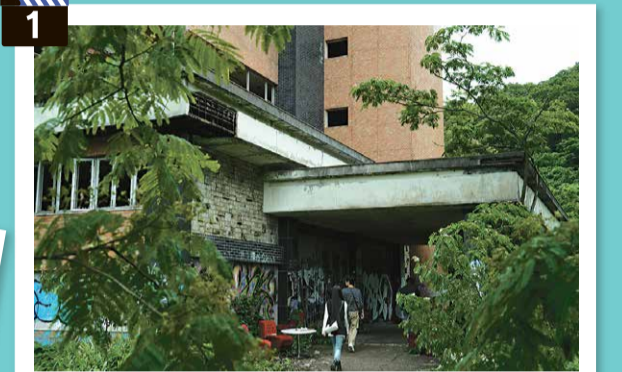
姉妹の母で、奏音と一緒に暮らす。

姉妹の父で、奏音と一緒に暮らす。

姉妹の祖母。詩音の失踪と牛首について何か知っている……？

姉妹の祖父で、妻たまりの妻を介護しながら、詩音たちと暮らす。

牛首村 富山県ロケ地マップ



**坪野鉦泉**  
詩音が牛の首のマスクを被せられ、消息を絶った廃ホテル。物語のカギを握る重要スポットとして数多くのシーンが撮影された。劇中でも「坪野鉦泉」として描かれ、富山湾を見下ろす絶景もスクリーンに登場した。坪野鉦泉の裏山に位置する坪野城(坪野城跡)は、松倉城を取り囲む支城群の一つだったと考えられている。江戸時代の文献によれば、椎名氏または上杉氏の家臣が在城したとも伝えられており、城周辺には、上杉謙信に関する伝説が数多く残っている。

⚠️ 坪野鉦泉の敷地は私有地です。無断立ち入りは絶対におやめください。



**あいの風とやま鉄道 魚津駅**(魚津市釈迦堂1-1)  
奏音と行動を共にしてきた蓮が、身に迫る恐怖の前にある決断をする場面が撮影された。土砂降りの雨がよりいっそう不気味さを演出するシーンだが、これは人工ではなく本物の雨。清水崇監督が止まない雨を逆手に取り、撮影を行った。



**海の駅「蜃気楼」**(魚津市村木定坊2500-2)  
東京から来た奏音らが初めて富山に降り立つシーンが撮影された。奏音は海越しに望む蜃気楼に違和感を覚える。海の駅蜃気楼は、旬の魚が並ぶ鮮魚即売コーナーや食事処、魚津の特産品の販売を行う複合施設。蜃気楼や地元のおいしい海の幸を求めて多くの観光客で賑わう。  
「蜃気楼」とは、遠くの景色が伸びたり反転したりして実際とは異なる景色に見える神秘的な自然現象。世界的に出現頻度が多い魚津市でも同じものは二度と目にする事はできず、蜃気楼を生で見る事ができれば幸運になるとも言われている。



**山城王団たわ!**

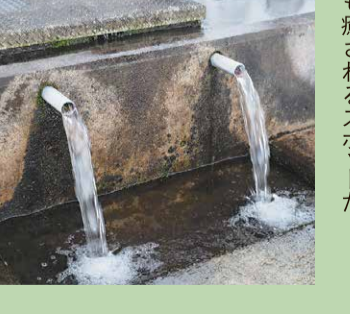
舞台となった 坪野地区周辺は、歴史と癒し・パワースポットの宝庫!



**【松倉城跡】**  
松倉城は数多くの支城を擁した越中最大級の山城。築城は南北朝期の14世紀前半と推定される。幾多の武将がこの城を巡って争い、戦国末期の16世紀末までの250年の長期にわたって、新川郡の要としての役割を果たした。上杉謙信に攻め落とされる前は、新川地方を統治していた武将・椎名康胤が城主を務めた。海近くの魚津城が新川地方の中心となつてからは、政治的、軍事的役割は低下した。



**【東山円筒分水槽】**  
3つの用水に公平に水を分配するための東山地区にある円筒分水槽で、近年その美しさから観光スポット、パワースポットとして注目され、日本一美しい円筒分水槽と評されている。



**【薬師の水】**  
胃腸に良いと地域に長年愛されてきた湧き水。坪野鉦泉からほど近い場所に水汲み場が設けられており、誰でも水を持ち帰ることができる。眼下に広がる田園風景にも癒されるスポットだ。

**【洞杉】**  
古いもので推定樹齢が1千年を超える天然スギの群生地。その多くが根元に巨大な岩石を抱くように生育しており、不思議なパワーを感じさせる独特の景観を作り出している。



**国立公園 雨晴海岸**(高岡市太田雨晴)  
奏音と蓮が詩音の恋人である将太に出会う場所として撮影された。「日本の渚百選」の一つにも選ばれており、天候に恵まれれば富山湾越しに立山連峰を望むことができる。「義経岩」は、源義経が奥州へ落ち延びる途中、にわか雨が晴れるのを待ったという岩で、地名「雨晴」の由来となった。また、この景色を、松尾芭蕉が『おくのほそ道』に詠んだという由緒地でもある。万葉の歌人、大伴家持も愛した景色の一つ。



※坪野鉦泉はじめ私有地への無断立ち入りはご遠慮ください。ロケ地へ訪れる際は、騒音やゴミのポイ捨てなどがないように、マナーに十分ご注意ください。